

平成23年度 シラバス	学年・期間・区分	5年次・後期・B群	
	対象学科・専攻	土木工学科	
港湾工学 (Port and Harbor Engineering)	担当教員	上小鶴 博 (Kamikozuru、Hiroshi)	
	教員室	都市環境デザイン工学科棟2階 非常勤講師控室 (TEL. 42-9125)	
	E-Mail	hiroshi_kamikozuru@tokoc.co.jp	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義/学修単位 [講義 I] / 1単位		
週あたりの学習時間と回数	[授業 (100分) + 自学自習 (80分)] × 15回		
[本科目の目標]			
<p>港湾は、物流・生産にかかわる機能と生活にかかわる機能が複合的に連携した社会基盤施設である。当科目では、社会基盤施設としての港湾への理解を深めるために、港湾の計画、港湾施設の設計と建設および管理を一連のものとして講述する。内容としては、港湾の長期計画、港湾施設の設計と必要な自然条件の考え方、港湾施設の施工、港湾と地域のかかわりについて本県の事例を参考に学習する。最近話題になることが多い地球温暖化、アセットマネジメント、国土形成計画についても学習する。</p>			
[本科目の位置付け]			
<p>数学、水理学、土質工学、地盤工学などで学んだ様々な知識が基礎となっている。また港湾の機能は、地域の生成・発展と表裏一体となっていることから、地域社会の産業、生活、文化等の動向に常日頃から関心をもつことが必要となる。</p>			
[学習上の留意点]			
<p>時代が変化し土木工学に対する社会の要請が大きく変化している。いま、土木技術者に求められているのは、個々の施設をいかに整備するかという“ものづくり”に関する能力だけではない。これからの土木技術者には、地域を存続させるための課題を見出し、それに対応する適切な施策を提示し、その施策を実現するために土木技術が必要な理由を明確に説明できることが求められる。このことを常に念頭におきながら受講していただきたい。</p>			
[授業の内容]			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. 序論	2	インフラとしての港湾の役割と特徴について理解し、説明できる。	港に関する概要を調査予習する
2. 港湾を取り巻く自然	4	港湾の計画・設計に必要な海象・気象条件の基礎を理解し、簡易な設計条件を算出できる。	港湾を取り巻く自然を調査予習する
3. 港湾施設の計画と設計	6	港湾計画と施設設計の基本的手順、手法を理解し、簡易な計画・設計ができる。	港湾施設の計画と設計を調査予習する
後期中間試験		授業項目1～3について達成度を確認する	授業項目1～3を再確認する
4. 港湾施設の建設	4	港湾施設の建設に関する基本的手順、施工方法を理解できる。	港湾施設に関する調査予習
5. 地球温暖化と港湾整備	4	地球温暖化の緩和・適応に向けた港湾施策の現状と今後の取り組み方、具体的方策に関する基本事項を理解し、説明できる。	地球温暖化と港湾整備に関する調査予習
6. 港湾施設におけるアセットマネジメント	4	ストック型社会の到来に対応したアセットマネジメントの基本的考え方を理解し、説明できる。	港湾施設におけるアセットマネジメントについて調査予習する
7. 国土形成計画と港湾整備	4	新しい国土像、地域像を示す国土形成計画を理解し、これからの鹿児島のあるべきあり方を考える際の手がかりを取得できる。	国土形成計画について調査予習する
後期期末試験		授業項目4～7について達成度を確認する	授業項目4～7を再確認する
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違った部分を理解できる	

